

# 家庭生活でも意識してみよう！

## 幼児期の「10の姿」の取り組み（例）

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」とは、あくまでも幼稚園や保育園などで保育を行う方向性を示した考え方ではありますが、家庭でも育児のあり方を考える上で参考になり、「10の姿」を育てるきっかけはたくさんあります。

以下で、「こんなことができるようになっていけばいいな」といった項目のヒントを数例ご紹介します。家庭でも取り組めるので親子で楽しみながら育ててみましょう。

### 好き嫌いせずに食べる ＜健康な心と体＞

毎日の食事は健康な心と体を養う基本となります。おいしいものを食べることで食べものへの興味も芽生えます。季節の食材をいただいて四季の恵みを知り、作物を育てる人たちへの感謝の気持ちも育まれることでしょう。

### 自分でお出かけ前の準備をする ＜自立心＞

家族での外出の際、お出かけの準備や帰宅後のお片付けを子どもといっしょにやってみませんか。自分のものを自分で準備し、使った後は自分で片づけることで自立心を育むきっかけになります。

できる!からのやる気↑  
プラス言葉で励まそう!

### お手伝いをする ＜協同性＞

食事の準備やお掃除などいっしょにやってみましょう。親から感謝の言葉をかけられ、家族という小さな社会の中で協同することを知ります。家族の役に立ったという大きな自信も生まれます。

### 絵本を読んで、 感想を言う

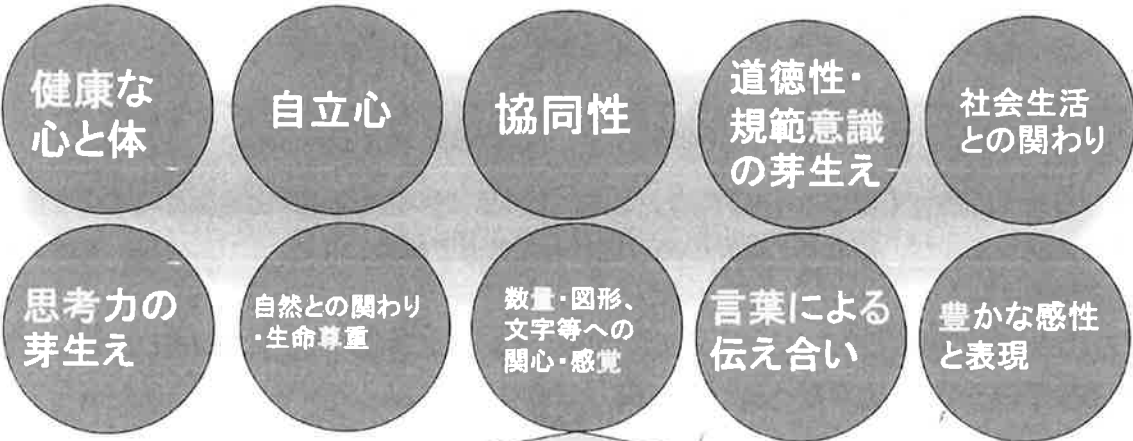
#### ＜言葉による伝え合い＞

親子で絵本の読み聞かせをして、登場人物についてお話をするのもいいですね。自分の気持ちを表現する力や人の気持ちを想像する力を養います。

### お菓子を 分けて配る ＜数量や図形、 文字等への関心・ 感覚＞

お菓子を人数分、同じ数だけ取り分けてもらったり、お皿の数を数えてもらったりすることで数への興味が芽生えます。また、散歩中に自分の名前のひらがなが書いてある看板を探すのも楽しいですね。文字への関心が高まることでしょう。

☆～園で家庭で学校で地域で、豊かに育つ“10のたね”



★保育参加で、みつけられた10の姿を書いてみましょう(\*^\_^\*)

幼児期までを土台に育つ

非認知的能力

(心の強さと心の広さ)

「鬼滅の刃」から聞こえる！ たくさんの“プラス言葉”